

# 従業員のリクリエーション行動と職場環境認知

○ 武田 正司 田中 鎮雄  
(日本大学) (日本大学)

増田 慧 今野 守  
(日本大学) (日本大学)

## 職場レクリエーション、健康・体力、職場環境認知

### I. 結論

近年、ひとびとの健康・体力づくりニーズや労働福祉あるいは経営上のニーズなどから、職場スポーツ・レクリエーションの考え方やあり方を見直す傾向が強まってきている。いわゆる「すべての従業員のためのスポーツ」の実現が改めて強く求められてきているのである。

このような状況の中で、職場スポーツ・レクリエーションに関する研究も活発化し、従業員の健康・体力づくり、疾病予防等の身体的効果をはじめ、作業能率の向上、労働災害、欠勤率の低下あるいは職場の明朗化等の社会的効果に関する研究も次第にその成果をあげつつある。<sup>1)</sup> 職場スポーツ・レクリエーションは、また、ストレスの解消その他、心理的精神的側面にも効果的であることは周知のとおりであるが、スポーツ・レクリエーションの機能を職場それ自体との関係でみると、職場の物理的、規範的、人間関係の等の諸環境に対する従業員の認知に、スポーツ・レクリエーションがどのような影響を与えているか、ということについては十分に研究されているとはいえない状況にある。

このような観点から、われわれは、職場スポーツ・レクリエーション研究の一端として、従業員のスポーツ・レクリエーション参加と職場環境認知との関係解明を企図したのであった。具体的には、Rudolf.H.Moosによって作成された社会環境尺度 (Social Climate Scale) <sup>2)</sup> の中の一つである職場環境尺度 (Work Environment Scale) <sup>2)</sup> を用いて、一流自動車会社従業員の「職場環境認知」状況をとらえ、これと従業員のスポーツ行動等との関係を明らかにしようと試みたのである。

この研究でこれまで得た知見は、大要次のとおりである。

まず、体調感の良好なものとそうでないものとの間にみる職場環境尺度 (Work Environment Scale ; 以下WESとよぶ) に対する反応の相違を分析したところ、体調の良好なものは職場環境を好意的に評価している傾向のあることが明らかになった。<sup>3) 4)</sup>

この研究に続いて、年齢、職種等の基本的属性やスポーツ・レクリエーション行動関連諸要因の構造的解明が試みられ、<sup>5) 6) 7)</sup> 「健康管理法としての運動・スポーツ志向は、地域や職場のスポーツ行事参加などのスポーツ・レクリエーション行動を促進し、このことが健康感、体力感とくに体調感を向上させ、その結果として、職場環境認知を好転させる」という仮説を導き出してきたのである。<sup>8)</sup>

本研究は、この仮説を検証するとともに、とくに、職場環境の認知の良否を一定の手続きに基づいて一層明確にし、この認知の良好なものとそうでないものとにみられる社会的心理的身体的状態の相違を明らかにしようとするものである。

### II. 方法

1. 調査対象：地域と一体になって発展してきた、自動車産業界のトップ企業 (静岡県浜松市S自動車会社) の男子従業員

2. 調査方法：質問紙調査

3. 調査時期：昭和59年7月

4. 有効回収数および有効回収率：有効回収数806、有効回収率80.6%

5. 質問紙の構成

(1) 基本的属性に関する項目：年齢、最終学歴、職種、勤務年数

(2) スポーツ行動に関する項目：職場スポーツクラブ所属、職場スポーツ行事参加、地域スポーツクラブ所属、地域スポーツ行事参加

(3) 「健康」等の自己評価に関する項目：健康感、体力感、運動不足感、体調感

(4) 健康管理法に関する項目：運動・スポーツ志向、食事志向、規則正しい生活志向、くすり志向

(5) WESに関する項目：WESは3つの次元、10のサブスケールから成り立っており、各サブスケールはそれぞれ9項目で構成されている (90項目)。

6. 分析の視点と手順

職場環境を好意的に認知しているものを何らか基準で見出す必要から、WES90項目を次の手続きによって整理した。

(1) WESは米国で作成されたものであるため、90項目の中にはわが国の職場になじまない項目があり、その評価がむずかしいこともあって、これらの項目を一応除外した。続いて、今回対象としたわが国トップクラスのS自動車会社の従業員には不適当と思われる項目もみられ、これらも除いてWESの項目を50項目にしぼった。

(2) これら50項目がどのような相互関係にあるかをみるため、50項目を変数とした因子分析 (主因子法、ノーマルバリマックス法) を行った。因子分析の結果、次の4因子が得られ、それらは次のように解釈した。

表1. 職場環境認知と基本的属性との関係

基本的属性	職場環境認知		物理的環境		人間関係			働きがい			仕事へのとりくみ方				A 群	B 群						
	領域		項目		3			4			5			6			7		8			
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ			はい	いいえ	はい	いいえ		
年齢	30歳未満		39.7	46.3	43.8	43.4	33.1	50.5	47.5	37.6	37.8	55.8	38.4	65.4	42.5	47.5	39.2	45.0	48.1	42.8		
	30歳以上40歳未満		26.1	30.2	27.5	29.3	31.6	26.5	25.8	32.6	31.0	23.3	31.4	16.3	28.6	28.4	34.8	26.4	21.7	29.6		
	40歳以上		34.2	23.5	28.7	27.3	35.3	23.0	26.7	29.8	31.2	20.9	30.2	18.3	28.9	24.1	26.0	28.6	30.2	27.6		
	χ <sup>2</sup> 検定		**	**	**	**	**	**	*	**	**	**	**	**	**	**	**	**				
最終学歴	旧制小学校・新制中学校		23.4	17.1	21.7	18.2	22.2	18.1	18.8	21.1	21.4	16.3	21.0	14.4	20.8	15.4	21.1	19.3	21.7	19.4		
	旧制中学校・新制高等学校		64.7	58.8	65.3	58.4	59.4	62.6	63.0	58.7	58.7	60.3	60.3	65.3	59.3	69.2	63.2	60.6	67.9	60.3		
	旧制高等学校・旧制専門学校・短大・大学		11.7	24.1	13.0	23.4	18.4	19.3	18.2	20.2	19.9	18.7	18.7	20.3	19.9	15.4	15.7	20.1	10.4	20.3		
	χ <sup>2</sup> 検定		**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**				
職種	現業職		80.5	67.4	77.4	69.4	74.1	72.0	73.1	72.4	70.6	77.5	71.5	78.4	71.6	77.8	78.9	70.8	74.5	73.3		
	事務職・管理職・技術職・営業職		19.5	32.6	22.6	30.6	25.9	28.0	26.9	27.6	29.4	22.5	28.5	21.6	28.4	22.2	21.1	29.2	25.5	26.7		
	χ <sup>2</sup> 検定		**	**	*	*	**	**	**	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*			
勤務年数	10年未満		42.3	50.1	46.9	46.9	37.8	52.9	50.4	41.6	41.4	58.5	42.3	66.7	46.3	49.4	42.2	48.5	51.9	46.1		
	10年以上20年未満		43.2	38.1	40.6	39.9	46.9	35.8	37.6	44.1	44.7	30.6	43.8	24.8	41.0	37.0	43.6	39.0	35.9	40.9		
	20年以上		14.4	11.8	12.5	13.2	15.3	11.3	12.0	14.3	13.9	10.9	13.9	8.5	12.7	13.6	14.2	12.5	12.3	13.0		
	χ <sup>2</sup> 検定		**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**		

注1) 項目1: 色彩や装飾は、職場をあたたかくし、気持ちよく働けるようにしている。

項目2: 机や椅子などの備品が、いつも便利ないように配置されている。

項目3: 仲間意識が強くない。

項目4: 人は、お互いに思いやりを持っている。

項目5: 仕事そのものは、本当にやりがいのあるものである。

項目6: 多くの仕事をなしとげることが、職場にとって重要なことである。

項目7: 職場のひとびとは、自分の仕事に多大の努力を払っている。

項目8: 自ら進んで仕事をしようとする人は、ほとんどいない。

(表2～表4同様)

注2) A群: WES 8項目すべてに好意的な認知を示す群

B群: A群以外の群

(表2～表4同様)

表2. 職場環境認知とスポーツ行動との関係

職場環境認知		領域		物理的環境		人間関係		動きが		い		仕事へのとりくみ方		A	B					
		項目		1	2	3	4	5	6	7	8	群	群							
		回答		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ					はい	いいえ			
スポーツ行動																				
職場スポーツクラブ所属	所属している		32.7	29.6	29.3	32.1	31.3	30.7	33.5	27.0	32.3	27.9	29.9	35.3	31.2	29.6	27.5	32.1	38.7	29.7
	所属していない		67.3	70.4	70.1	67.9	68.8	69.3	66.5	73.0	67.7	72.1	70.1	64.7	68.8	70.4	72.5	67.9	61.3	70.3
	χ <sup>2</sup> 検 定																			
職場スポーツ行事参加	「スポーツ大会」参加																			
	参加した		72.4	63.0	71.0	63.8	63.1	69.3	67.1	65.5	69.3	61.6	68.3	60.8	67.5	64.2	65.2	67.4	71.7	66.1
	参加しなかった		27.6	37.0	29.0	36.2	36.9	30.7	32.9	33.5	30.7	38.4	31.7	39.2	32.5	35.8	34.8	32.6	28.3	33.9
	χ <sup>2</sup> 検 定		**		*						*									
	「健康マラソン大会」参加																			
	参加した		28.2	13.1	22.9	16.7	15.0	22.2	22.5	14.6	23.0	11.6	20.4	15.0	20.5	14.8	15.2	20.8	42.5	15.9
参加しなかった		71.8	86.9	77.1	83.3	85.0	77.8	77.5	85.4	77.0	88.4	79.7	85.0	79.5	85.2	84.8	79.2	57.5	84.1	
χ <sup>2</sup> 検 定		***		*		*		**		***								***		
「駅伝大会」参加																				
参加した		29.4	17.1	24.3	20.6	18.1	24.9	24.4	18.9	24.6	17.1	23.4	17.0	23.3	17.9	17.6	23.8	37.7	19.9	
参加しなかった		70.6	82.9	75.7	79.4	81.9	75.1	75.6	81.1	75.4	82.9	76.6	83.0	76.7	82.1	82.4	76.2	62.3	80.1	
χ <sup>2</sup> 検 定		***				*				*								***		
地域スポーツクラブ所属	所属している		33.0	28.4	29.6	30.8	27.4	34.7	28.9	32.3	31.6	27.5	31.2	26.1	29.5	33.3	33.8	29.1	25.5	31.0
	所属していない		67.0	71.7	70.4	69.2	72.6	65.3	71.1	67.7	68.4	72.5	68.8	73.9	70.5	66.7	66.2	70.9	74.5	69.0
	χ <sup>2</sup> 検 定						*													
地域スポーツ行事参加	参加した		52.9	40.8	48.7	43.6	47.8	44.4	46.3	45.0	51.1	34.5	48.4	34.6	46.3	43.8	49.5	44.5	55.7	44.3
	参加しなかった		47.1	59.2	51.3	56.4	52.2	55.6	53.7	55.0	48.9	65.5	51.6	65.4	53.7	56.2	50.5	55.5	44.3	55.7
	χ <sup>2</sup> 検 定		***								***		**						*	

表3. 職場環境認知と健康感・体力感・運動不足感・体調感との関係

職場環境認知		領域		物理的環境		人間関係		動きが		い		仕事へのとりくみ方		A	B					
		項目		1	2	3	4	5	6	7	8	群	群							
		回答		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ					はい	いいえ			
健康感・体力感 運動不足感・体調感																				
健康感	健康である		24.9	21.1	25.2	20.8	17.5	26.1	25.6	18.3	25.4	17.1	23.3	20.3	23.8	18.5	16.7	24.8	35.8	20.7
	普通だと思う あまり健康だと思わない		75.1	78.9	74.8	79.2	82.5	73.9	74.4	81.7	74.6	82.9	76.7	79.7	76.2	81.5	83.3	75.2	64.2	79.3
	χ <sup>2</sup> 検 定						**		*		*								***	
体力感	かなり体力のある方だと思う どちらかといえば体力のある方だと思う		28.8	26.6	27.8	27.3	27.5	27.6	29.1	25.2	30.7	20.9	27.3	28.8	27.5	27.8	28.9	27.1	26.4	27.7
	普通だと思う		56.8	57.5	60.3	54.9	55.3	58.4	59.7	53.4	57.8	55.9	58.3	52.2	57.7	54.9	53.5	58.4	66.1	55.9
	あまり体力のない方だと思う かなり体力のない方だと思う		14.4	15.9	11.9	17.8	17.2	14.0	11.2	21.4	11.5	23.3	14.4	19.0	14.8	17.3	17.6	14.5	7.5	16.4
	χ <sup>2</sup> 検 定								***		***								*	
運動不足感	いつも運動不足を感じている		15.6	22.4	17.4	21.3	21.3	18.5	17.1	23.3	17.7	23.6	18.2	25.5	19.3	21.0	20.1	19.4	19.8	19.6
	ときどき運動不足を感じる		56.2	54.6	58.3	52.9	53.7	56.2	53.8	57.4	54.0	57.8	55.6	53.6	54.6	57.4	58.3	54.2	57.6	54.8
	あまり運動不足を感じない まったく運動不足を感じない		28.2	23.0	24.3	25.8	25.0	25.3	29.1	19.3	28.3	18.6	26.2	20.9	26.1	21.6	21.6	26.4	22.6	25.6
	χ <sup>2</sup> 検 定		*						**		***									
体調感	非常に体調がいい どちらかといえば体調がいい方だ		52.3	39.5	50.1	40.8	38.4	49.0	50.0	36.9	50.7	32.2	47.1	34.6	45.9	40.8	38.2	47.0	60.4	42.4
	どちらともいえない		38.1	35.4	36.2	37.2	35.0	37.2	33.9	34.7	38.3	35.7	36.6	36.6	32.7	34.8	36.2		33.0	36.3
	あまり体調がよくない方だ 非常に体調がよくない		22.4	14.5	23.0	24.4	16.0	12.8	29.2	14.6	29.5	17.2	28.8	17.5	26.5	27.0	16.8		6.6	21.3
	χ <sup>2</sup> 検 定		***		**		**		***		***		**		*		**		***	

表4. 職場環境認知と健康管理法との関係

健康管理法		職場環境認知																A 群	B 群		
		領域		物理的環境				人間関係				動きがい				仕事へのとりくみ方					
		項目		1		2		3		4		5		6		7				8	
回答		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ				
運動 スポーツ志向	そのとおりだ	64.9	60.0	60.9	62.9	59.7	63.6	62.2	61.8	66.2	53.1	63.6	55.6	62.7	59.3	63.7	61.5	70.8	60.7		
	その反対だどちらともいえない	35.1	40.0	39.1	37.1	40.3	36.4	37.8	38.2	33.8	46.9	36.4	44.4	37.3	40.7	36.3	38.5	29.2	39.3		
	$\chi^2$ 検定																	***			
食事志向	そのとおりだ	57.1	54.5	56.8	54.7	58.7	54.5	53.7	58.4	58.2	50.5	56.0	53.6	56.2	53.1	55.4	55.6	53.8	55.9		
	その反対だどちらともいえない	42.9	45.5	43.2	45.3	41.3	46.5	46.3	41.6	41.8	50.5	44.0	46.4	43.8	46.9	44.6	44.4	46.2	44.1		
	$\chi^2$ 検定																	*			
規則正しい生活 志向	そのとおりだ	57.7	56.4	58.8	55.5	58.7	55.8	57.6	55.9	60.4	49.6	57.6	54.2	56.2	59.9	55.9	57.3	58.5	56.7		
	その反対だどちらともいえない	42.3	43.6	41.2	44.5	41.3	44.2	42.4	44.1	39.6	50.4	42.4	45.8	43.8	40.1	44.1	42.7	41.5	43.3		
	$\chi^2$ 検定																	**			
くすり志向	その反対だ	56.2	61.5	59.7	59.0	54.7	62.3	61.6	55.9	59.1	59.7	60.3	54.9	59.3	59.3	59.3	59.3	52.8	60.3		
	そのとおりだどちらともいえない	43.8	38.5	40.3	41.0	45.3	37.7	38.4	44.1	40.9	40.3	39.7	45.1	40.7	40.7	40.7	40.7	47.2	39.7		
	$\chi^2$ 検定																	*			

表5. 関連項目間の相関マトリックス

項目	「健康マラソン大会」参加	「駅伝大会」参加	地域スポーツ行事参加	健康感	体力感	体調感	運動スポーツ志向
「健康マラソン大会」参加							
「駅伝大会」参加	*** 0.373						
地域スポーツ行事参加	*** 0.231	*** 0.162					
健康感	*** 0.153	*** 0.148	*** 0.178				
体力感	*** 0.123	** 0.119	*** 0.193	*** 0.387			
体調感	*** 0.161	** 0.109	*** 0.136	*** 0.382	*** 0.259		
運動スポーツ志向	*** 0.137	*** 0.190	*** 0.262	*** 0.168	*** 0.234	*** 0.142	

第1因子：物理的環境の因子

第2因子：人間関係の因子

第3因子：働きがいの因子

第4因子：仕事へのとりくみ方の因子

(3) これら4因子それぞれに負荷が高く、しかもその因子を代表するにふさわしい内容をもつ項目を、各因子それぞれ2項目づつ選び出した。選出した項目は次のとおりである。

物理的環境の領域：①色彩や装飾は、職場をあたたくし、気持ちよく働けるようにしている。②机やいすなどの備品が、いつも便利るように配置されている。

人間関係の領域：③仲間意識が強くない。④人は、お互いに思いやりもっている。

働きがいの領域：⑤仕事そのものは、本当にやりがいのあるものである。⑥多くの仕事をなしとげることが、職場にとって重要なことである。

仕事へのとりくみ方の領域：⑦職場のひとびとは、自分の仕事に多大の努力を払っている。⑧自ら進んで仕事をしようとする人は、ほとんどいない。

(4) 次に、職場環境を好意的に評価している従業員を鮮明に弁別するため、便宜的に、選出された8項目すべてに好意的な反応を示す群(A群)とそれ以外の群(B群)とに分けてみた。その結果、A群は106名(13.2%)、B群は700名(86.8%)であった。そして、A、B両群の基本的属性、スポーツ行動、「健康」等の自己評価および健康管理法などの諸項目について、その相違点を分析考究する方法をとった。

### Ⅲ. 結果と考察

表1～表4は、WES8項目と基本的属性、スポーツ行動、「健康」等の自己評価および健康管理法との関係を示したものである。また、右欄にはWES8項目のすべてに好意的な評価をした「A群」とそれ以外の「B群」を対比させた結果が示されている。

WES8項目単位の考察は別の機会にゆずり、ここでは本研究の分析の意図に従って、A群とB群の比較分析の結果について報告する。

まず、A、B群にみる基本的属性の差異についてみると、表1から明らかなように、「年齢」、「最終学歴」、「職種」および「勤務年数」のいずれにも差異の認められないことが $\chi^2$ 検定の結果から明白である。このことは、A群、B群が年齢や職種などの基本的属性に関係なく構成されていることを示すものとして注目しなければならない。

次に、スポーツ行動の各項目についてみると、表2にみるとおり、S自動車会社の主なスポーツ行事である「健康マラソン大会」および「駅伝大会」への参加の項目に、それぞれ0.1%レベルの有意差が認められ、A群の方がB群よりもそれらへの参加が積極的であることを示している。しかも、A群はB群よりも過去1年間に地域で開催されたスポーツ行

事に「参加した」と回答するものが多い。

健康感、体力感、運動不足感および体調感にみるA、B群の差異に注目すると、表3から明らかなとおり、A群はB群よりも健康感、体力感とくに体調感がよいと答えるものが有意に多いことがわかる。

また、健康管理法の各項目についてみると、食事に気をつけているものや規則正しい生活を心がけているもの、およびビタミン剤などのくすりを服用しているものの比率は、A、B群ともに同様な傾向を示しているが、運動・スポーツを心がけているものはA群に有意に多いことが明らかである。

以上の結果が示すように、職場環境の認知の良好な群は、健康管理法としての運動・スポーツ志向性が強く、職場や地域のスポーツ行事への参加が積極的で、健康感、体力感および体調感のよさも認めていることが明白にされたわけである。とくに、これらの事実が年齢、学歴、職種などの基本的属性と無関係に認められる点に注目しなければならない。

次に、さきのA群とB群との間で有意差を示した項目に注目して、それらの項目間の相関関係を分析した。表5は、ファイ係数ないしクramer係数および相関の有意性を示したものである。表5にみるとおり、「健康マラソン大会」参加、「駅伝大会」参加、地域スポーツ行事参加、健康感、体力感、体調感および運動・スポーツ志向にみる相互関係は極めて密接であることが明白である。このことは、これら諸項目それぞれが因果関係ないしは相乗関係にあることを示唆するものとして注目しなければならないのである。

### Ⅳ. 要約

わが国のトップ自動車メーカーの従業員(806名)を対象に、WES等の質問紙調査を実施し、分析の結果、次のような知見を得た。

1) 職場環境を好意的に認知している従業員は、健康管理法としての運動・スポーツ志向性が強く、職場や地域のスポーツ行事に参加するなど、積極的なスポーツ行動がみられ、健康、体力、体調の自己評価も高い傾向にある。

2) 運動・スポーツ志向性、職場、地域スポーツ行事参加、健康感、体力感および体調感は相互に密接な関係にある。

3) 以上のことから、本研究の「従業員の運動・スポーツ志向は、スポーツ参加を促し、健康感、体力感、体調感を向上させ、その結果、職場環境認知を好転させる」という仮説が、ほぼ立証されたものとみてもよいものと思われる。

### < 文 献 >

1) 桑野豊 編、『スポーツ社会学講座2、現代社会とスポーツ』、1984、pp.217-223。

2) 浅井正昭、「日本版 職場環境尺度作成の試み」、

『昭和56年度トヨタ財団研究報告書、組織における役割達成、責任感、満足度、生産性と適正人員規模に関する日米比較文化的研究』、1983。

3) 増田慧、田中鎮雄、今野守、武田正司：「スポーツ参加と職場環境への適応」、レクリエーション研究第12号、日本レクリエーション学会、1984。pp.24-25。

4) 増田慧、大橋治人、田中鎮雄：「スポーツ参加と職場環境への適応」、研究年報第33集、日本大学文理学部(三島)、1985。pp.279-285。

5) 今野守、田中鎮雄、増田慧、小俣里知子、松村悦博、武田正司：「スポーツ参加と従業員の生きがい」、レクリエ

ーション研究第12号、日本レクリエーション学会、1984。pp.26-27。

6) 今野守、小俣里知子、武田正司：「スポーツクラブ参加と従業員の生きがい」、研究年報第33集、日本大学文理学部(三島)、1985。pp.287-293。

7) 今野守、田中鎮雄、増田慧、武田正司：「従業員の健康志向とスポーツ参加形態にみる構造的特徴」、日本体育学会第36回大会口頭発表、1985。

8) 増田慧：「従業員のスポーツ参加と職場環境認知」(未発表論文)